

P3-B-0825

膝前十字靱帯損傷患者に対する教室開催の取り組み

高見 悠也, 小松絵梨子, 細川 智也, 鈴木 智, 佐藤 謙次

船橋整形外科病院 スポーツリハビリテーション部

key words ACL損傷・教室・アンケート

【目的】

我々は2003年より膝前十字靱帯（ACL）損傷にて当院を受診した患者に対し「ACL教室」を開催してきた。2008年から教室終了後に受講者に対しアンケートを実施し、開催運営に役立てている。本研究の目的は、ACL教室の内容及びアンケート結果を報告することである。

【方法】

対象は2008年9月～2014年7月にACL教室を受講しアンケート回答を得られたACL損傷患者975名とした。開催は年4回の頻度で、開催時間は約90分とし、医師・理学療法士・トレーナーが講義を行った。まず、医師がACL損傷の病態、当院の再建術について説明し、理学療法士及びトレーナーが術後リハビリテーションについて説明を行った。終了後にアンケート用紙を配布し、その場で無記名にて回答を得た。設問は問1. 医師の説明は役に立ったか、問2. リハビリ職員の説明は役に立ったか、問3. 医師の説明は分かりやすかったか、問4. リハビリ職員の説明は分かりやすかったか、問5. 満足度とした。各項目は5段階選択式とした。

【結果と考察】

各設問の回答率は97%であった。問1は、とても役に立った64%、役に立った33%、どちらとも言えない2%、あまり役に立たなかった1%、役に立たなかった0%であった。問2は、とても役に立った63%、役に立った35%、どちらとも言えない2%、あまり役に立たなかった0%、役に立たなかった0%であった。問3は、とても分かりやすかった57%、分かりやすかった38%、どちらとも言えない5%、分かりづらかった0.7%、とても分かりづらかった0.1%であった。問4は、とても分かりやすかった61%、分かりやすかった37%、どちらとも言えない2%、分かりづらかった0%、とても分かりづらかった0%であった。問5は、大満足40%、満足56%、どちらとも言えない4%、やや不満0.3%、不満0%であった。結果より、各設問において好評価の回答が大部分であることから、当教室はACL損傷患者に対して有益な場となり得ると考えられる。